

98 しんかいさんしゃじんじゃ 新海三社神社 なかほんしゃ 中本社 にしほんしゃ 西本社



指 定 市有形文化財 平成14年3月6日
 所在地 田 口
 所有者 新海三社神社

中本社 一間社流造、銅板葺、切妻造、平入り
 西本社 二間社流造、(桁行二間梁間一間)、銅板葺、切妻造、平入り

新海神社の中本社、西本社の創建は何時頃誰の手により、どのような形式で行われたかは不明である。鎌倉時代源頼朝によって神殿の再興と、ほんだわけのみこと 菅田別命を合祀した記録のあることは、その時既に神殿の造営は行われていたと推定される。

各種の記録・古文書によると、750年余の間の改修に次ぐ改修、また再建も行われ、その都度その時代相応の装飾意匠が付加されたと想像される。

現在の中本社・西本社の建築年代については、元禄12年(1699)の請負証文と元禄13年(1700)の棟札があり、棟梁を田野口村の佐兵衛とした、2年間の工事であったことがわかる。

中本社の母屋は円柱に縁長押・半長押・内法長押を打ち、頭貫(拳鼻付き)を通す組物は連三斗とし、肘木には水繰をつける。中備は墓股とし、薄肉彫の彫刻(鶴、竹に雀など)をいれる。妻飾は二重虹梁とし、二重目は丈の短い大瓶束(双斗つき)で受け、中備に板墓股をいれ、棟木も大瓶束で受ける。縁は側面にのみ付き、脇障子を付ける。

母屋正面には幣軸をたて、板扉を入れる。また正面は縁を省き、木階がつく。向拝は大面取の角柱で、中央が湾曲した虹梁形の貫をいれ、両端に木鼻を付ける。組物は出組とし、肘木には水繰をつける。中備は大斗肘木とする。母屋とは海老虹梁でつなぎ、海老虹梁尻は大斗におさまる。軒は二軒の繁垂木で、飛檐垂木には反りを付けてある。

西本社の母屋は中本社と同様の軸部形式とし、中備は正面が葺束、妻側は墓股(薄肉彫の彫刻入り)とする。妻飾も中本社と同様に二重虹梁とするが、大瓶束のかわりに軍配形彫刻(双斗つき)で受け、中備に板墓股をいれ、棟木は大瓶束(双斗つき)で受ける。縁は側面にのみ付き、脇障子を付ける。母屋正面には二軒とも幣軸をたて、板扉を入れる。また正面は中本社と同様に縁を省き、木階がつく。

正面中央の柱上にある組物の上には、象鼻の彫刻も付ける。向拝は、二間とも中央が湾曲した虹梁形の貫を入れ、両端には獅子の彫刻木鼻を付ける。組物・中庸は中本社と同じである。母屋とは海老虹梁でつなぐが、中央の柱上は海老虹梁とせず手挟みを入れる。

(吉沢政巳工学博士調査による)